

世帯と人口

(11月1日現在)

世帯	44,001	(+ 86)
人口	119,077人	(+ 97)
男	60,857人	(+ 69)
女	58,220人	(+ 28)

この数値は平成13年10月31日付けで総務省統計局が公表した平成12年国勢調査の確定数を基に推計しています。

広報えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

*この広報は再生紙を使用しています。

▶木もれ日のさす園路を散策する来園者



▶テープカットを行う武田氏(右)



えびな模様…国分北から

自然生かした安らぎ公園

住民から愛され、親しまれる公園とは—今回紹介する国分北では、住民が市と一緒にこの課題に取り組み、公園づくりを行おうという趣旨のもと「緑地やすらぎ公園」が整備されました。そして11月18日、300人を超える住民が参加して、開園セレモニーが盛大に行われました。

初のワークショップ方式採用

「緑地やすらぎ公園」は、樹木や地盤をできるだけ自然のままに残しながら作られています。たとえば木のチップを敷き詰めた園路や、木立に囲まれた樹林広場、子どもたちの「ブランコや滑り台よりも広い遊び場がほしい」という要望に答えた多目的広場。そして、丹沢まで一望できる展望台などがあり、まさに自然にあふれた公園です。

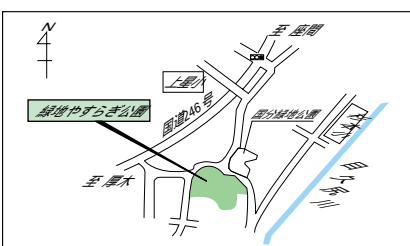
こうした整備の背景には、企画段階で市民と協力し計画を立てる、本市では初めての「ワークショップ方式」の採用がありました。

この方式を進めるにあたって、公園予定地の周辺地区である国分北三丁目・国分杉本自治会の協力を得て参加者を募り、去年の7月から今年の9月までに7回の会議を開催し、延べ134人の市民が参加しました。

参加者は、近隣市の事例を学ぶとともに、整備前の現地を歩いて起伏や樹木を確認し、どんな公園ができるかを検討することから始めました。その後、自分たちでイメージする公園を話し合い、地元の杉本小学校児童が描いた公園の絵も参考にしました。

国分北三丁目自治会長の武田弘之さん(69歳)は、「荒れ山の現地を見たとき本当に公園が出来るのかと不安になりましたが、参加したみなさんが活発に意見を出し合ったのがよかったです。国分杉本自治会や市と協働してできたこと、これが一番うれいすね」といいます。清掃などの管理は自治会が市と共同で行うそう、公園入り口周辺にスイセンやサツキの苗を植えたので、春にはもつと華やかになりますよ。今後はいろいろな催しをこの公園で行っていききたい」とも。

大人は子どものころ遊んだ野山のような懐かしさを、子どもは遊具のない「自然の広場」に新鮮さを感じるとともに、公園名に込められた、「すべての人が安らげるように」という願いを、この地を訪れただれもが実感できることでしょう。



国分北 アラカルト

◎人口(平成13年11月1日現在) 8,477人

◎世帯 3,165世帯

◎面積 0.89平方キロメートル
〔市全面積 26.48平方キロメートル〕

◎地名の由来 「国分」は、天平13(741)年の聖武天皇の詔によって作られた相模国分寺に由来。平成3年、住居表示の実施に伴って相鉄線以北を国分北一丁目～四丁目に変更。